

科目名	国語 I Japanese I			担当教員	長原しのぶ・長谷川隆			
学年	1年	学期	通年	履修条件	必修	単位数	3	
分野	一般	授業形式	講義	科目番号	15120001	単位区分	履修単位	
学習目標	1. 現代文や古典の読解を通して、他人の物の見方や考え方をを知る。 2. 正しい日本語で表現するための基礎を身につける。							
進め方	講義形式を基本とする。予習・復習に努めてほしい。原則として週に1回漢字小テストを実施する。適宜、読書の時間を設ける。意見を書いたり発表したりしてもらうこともある。							
学習内容	学習項目(時間数)			学習到達目標				
	※ガイダンス(1) 1. 随想と小説[長原](13) 「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」<随想> 「羅生門」<小説>			・筆者のすすめる読書法を理解することができる。(「ぐうぜん、うたがう、読書のススメ」)(A-1) ・展開に沿って、情景や心情の変化を読み取り味わい、主題を考えることができる。(「羅生門」)(A-1)				
	※ガイダンス(1) 2. 表現(6)[長谷川] ア. 仮名遣い イ. 送り仮名 ウ. 文字 エ. 句読点 [前期中間試験](3)			・正しい日本語で表現するための基礎的事項が理解できる。(D-1)				
	※試験返却と解説(1) 3. 評論と詩[長原](13) 「水の東西」<評論> 「I was born」<詩>			・論の展開に沿って、筆者の指摘する日本文化の特質に気付くことができる。(「水の東西」)(A-1) ・詩句をイメージするとともに「僕」の気持ちを理解することができる。(「I was born」)(A-1)				
	※試験返却と解説(1) 4. 表現(6)[長谷川] ア. 同音異義語 イ. 同訓異字 ウ. 類義語 エ. 慣用的表現 前期末試験			・正しい日本語で表現するための基礎的事項が理解できる。(D-1)				
	試験返却と解説(2)							
	5. 評論と小説[長原](14) 「もの」の科学から「こと」の科学へ<評論> 「青が消える」<小説>			・「もの」の科学と「こと」の科学の違いが理解できる。(「もの」の科学から「こと」の科学へ)(A-1) ・文体や表現を味わうとともに、「僕」の心情をとらえることができる。(「青が消える」)(A-1)				
	6. 古文[長谷川](7) (1) 古典文法 (2) 阿蘇の史(今昔物語集) [後期中間試験](3)			・古文を正しく音読し、読解に必要な基本的な文法を理解することができる。(A-1) ・古文を読み、言葉や表現方法の特徴をふまえて物語内容の面白さを説明できる。(A-1)				
	※試験返却と解説(1) 7. 評論[長原](13) 「コインは円形か」<評論> 「なぜ私たちは労働するのか」<評論>			・文章中の根拠をもとにして筆者の主張をとらえることができる。(「コインは円形か」)(A-1) ・筆者の主張について自分の考えを持つことができる。(「なぜ私たちは労働するのか」)(A-1)				
	※試験返却と解説(1) 8. 古文[長谷川](6) (1) 芥川(伊勢物語) 後期末試験			・基本的な古典文法を正しく理解し、現代とは異なる男女の関係を時代背景から読み解き、物語の面白さを説明できる。(A-1)				
	試験返却と解説(2)							
	評価方法	1. 評価の内訳：漢字小テストの成績を10%、提出物を15%、定期試験を75%とする。 2. 学習項目ごとの全体評価への重みは、1・3・5・7を各15%、2・4・6・8を各10%とする。 3. 授業に対する取り組みが悪い者については減点することがある。						
	履修要件	特になし						
	関連科目	国語Ⅰ(1年)→国語Ⅱ(2年)→国語Ⅲ(3年)→文学特論Ⅰ(4年)→文学作品講読(専攻科2年)						
教材	教科書：精選国語総合 三省堂 中渕正晃他 問題集：精選国語総合学習課題ノート 三省堂 『精選国語総合』編集委員会 漢字：級別漢字学習4級～2級(改訂常用漢字表対応版) 東京法令出版 赤羽靖他 表現：基礎からの国語表現の実践(改訂版) 京都書房 樺島忠夫・佐竹秀雄共著 図説：新総合図説国語(新訂版) 東京書籍 池内輝雄他 辞書：電子辞書等(国語辞典 古語辞典 漢和辞典)							
備考	単位追認試験、再試験は適切な時期に実施する。長原は月曜日放課後をオフィスアワーとし、長谷川は火曜日放課後をオフィスアワーとする。							